内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2006年2月）

◎内海事務総局長から

7年前にITUに来た時は、IMT-2000の標準化とその普及が最大の課題であった。

最初の仕事が、事務総局長はそんなレベルの会議に出席し、失敗をするべきではないという日本政府担当課長の助言に反して、ワーキンググループ・レベルの会議に出席し、標準化の最終合意を取り付けることであった。次に、普及のための専任のポストをITUの中に創設した。こんな簡単なことにも、内部の権限争いのため、決意をしてから1年以上もかかった。

間もなく、各国で免許入札が行われ、何兆円もの価格で免許が落札された。そして、落札した事業者は、経営危機に陥り、多くの事業計画は中止された。また、せっかく創設した専任ポストもITUの財政危機で廃止せざるを得なくなり、IMT-2000という言葉も人の口に上らなくなった。

7年後の今、日本では、ほとんどの携帯が3Gになってきているとのことである。出張者は、日本の3G端末を、ジュネーブで使用しているし、逆も真である。しかし、ITUから与えられている私の携帯は、いまだGSMであり、日本へ帰国するたびに、無理を言って、総務省から携帯電話をお借りしているのが実情である。このITUでは、大声で要求しない限り何も得られないから、頑張った3Gも事務総局長として残された期間に使うことはないだろう。

◎2月の事務総局長の主な動向

2月2～3日、WSIS理事会ワーキンググループ

WSISの結果をITUの組織改革にどのように生かすのかをまず議論し、開発局（BDT）の作業をもっとWSIS行動計画やアジェンダの実施に特化させるべきとか、ITUの役割を規定している憲章・条約を情報社会の時代に則して改正すべきなどの意見が出されました。また、WSISの結果でITUに指示されているマルチステークホルダーによる実施体制構築やICTインフラ整備の普及などはすぐに行動を起こすべきだし、ITUのマンデートを超える事項については他の機関と連携すべしなどの意見も出されました。インターネットガバナンスの取扱いやITUの名称変更なども含め、今後の理事会及び全権委員会での議論すべき事項が整理されました。

2月14～15日“RFIDネットワーク”ワークショップ（ジュネーブ）

無線タグと呼ばれるRFIDは、あらゆる“もの”に装着できて、“もの”と“もの”との通信を可能にすることから、物流、セキュリティー、パーソナル通信など多くの産業形態を大きく変えると考えています。ユビキタスネットワーク社会の実現のために必要な技術ですが、そのフォーマット、相互運用性、干渉問題、情報保護など国際標準の整備が遅れていて、ITUとしては積極的に国際間の調整を進めています。

今回ワークショップで、多くの日本の方々がスピーチをし、モデレーターを務められるなど、RFID関連分野での日本の高い技術力及びリーダーシップを示されたことはうれしく感じました。

2月16～17日　インターネットガバナンスフォーラム（IGF）コンサルテーション会合（ジュネーブ）

昨年のWSISにおいて、国連事務総長に対し、インターネットガバナンスの重要事項に関する公共政策をすべての利害関係者（マルチステークホルダー）で議論する場として、インターネットガバナンスフォーラム（IGF）を招集することが要請されています。第1回のIGFはギリシャで開催することが決まっていますが、フォーラムでの具体的な検討事項、議事進行方法、結果の取扱いなどは明確になっておらず、今回のコンサルテーション会合が開催されました。WSISで交わした議論の繰り返しが多々ありましたが、IGFは何かを決定する場でなく、議論し、互いに情報交換する場にしようとの意見が大勢を占めました。インターネットガバナンスについて全員で議論していこうという関係者の熱気、モーメンタムは強く感じられました。

2月13日　国連経済社会理事会（ECOSOC）議長との協議

今年の国連経済社会理事会（ECOSOC）議長は、チュニジア国連代表部のハチャニ大使が務められており、ECOSOAに対してはWSISのフォローアップが要請されています。フォローアップとは、WSIS行動計画実施の評価や、更なるサミットや政治的アクションの可能性を検討することを意味しています。しかしながら、WSIS行動計画のインプリメンテーションとフォローアップとの違いを理解されていない関係者も多いことから、議長にはその違いを十分に説明しておきました。

また、今年の国連総会で採択される予定のWSIS行動計画の実施を後押しする国連総会決議に関する協議も行いました。

2月24日　WSIS実施モデレーターズ／ファシリテーターズ会合

WSISの結果で11のアクションラインが定められており、それぞれマルチステークホルダーを基本として実施されますが、それぞれのアクションラインに取りまとめ役としてモデレーター／ファシリテーターが設定されます。そのモデレーター／ファシリテーターの取りまとめ方法や役割を確認する会合を開催しました。マルチステークホルダーで実施するものですから、政府、国際機関だけでなく市民社会も議論に参加しました。国連本部、WHO、ILO等が、それぞれのアクションラインでモデレーター／ファシリテーターを務めることを意思表明するなど、各関係機関の積極的な参加があり、WSISの結果はアクションラインに沿って実施段階に向けて動き出したと実感できた会議でした。

“3Gかしら？”